

大切な 甲賀市の自然 9

甲賀市内にすむ
絶滅が心配される動植物や
それらを育む大切な
自然についての連載です

里山をつくる 地形と地質

寒くなると、昆虫や草花が少なくなり、自然好きな人はちょっと退屈かもしれません。でも草が無くなると見やすいものもあります。地層や岩石です。

地層や岩石を調べるには、それが出ている崖や河原に行く必要がありますが、草が無くなり見通しが良いと、観察しやすいのです。

水口・甲南・甲賀などの丘陵地では、砂や泥の層が見られます。固まっていますが、ツルハシなどで崩せる固さです。このような泥は、「ヌリ」や「ズリンコ」などと呼ばれてきました。



▲造成工事中に観察した古琵琶湖層群(水口町笹が丘)



丘陵の谷が水田になった景観。自然観察会の一コマ。

このズリンコから貝の化石を見つけた方も多いことでしょう。この地層にはドブガイなど淡水にすむ貝の化石がよく見られます。地層や化石を調べると、約300万年前～200万年前の甲賀市に、琵琶湖の前身になる湖のあったことがわかります。それで、この地層は「古琵琶湖層群」と呼ばれます。

古琵琶湖層群の丘陵では、雨などにより地層が浸食され、谷がたくさんできました。空から見ると樹の枝のように入り組んでいます。これらの谷は水田として利用されています。田のそばに丘がある風景は、古琵琶湖層群がつくりだしたものといえるでしょう。

また場所によっては、水の通りやすい砂層や水はけの悪い泥層などの影響で、水がしみだして、湿地ができています。

これら水田や湿地と、周囲の草地や樹林を併せた環境は、里山の生物の大切なすみかになってきました。

甲賀の自然には、地質がおおいに関わっているのです。

12月の
休園日

4(月)、11(月)、18(月)、25(月)、
28(木)～31(日)、新年は1月4日から開園します。

みなくち子どもの森自然館
☎ 63-6712 FAX 63-0466

甲賀市文化協会連合会文芸欄

今回は、水口町文化協会からお寄せいただきました。

- ・ 村人の豊作願うならわしか百八灯は幽玄の界 宿谷 愛子
- ・ 雨上がりの水滴ゆらぐ里芋の葉に趣を見るたのしみながら 大平美恵乃
- ・ 杖たより今朝はゆつくり庭を踏むこのありがたき土の感触 奥村 露子
- ・ わが心みな知るごとく口開けて居並び居れど声出ぬ狸 杉本智恵子
- ・ 蔓先に咲く朝顔の一二輪小花となりて秋を宿しぬ 澤山寿美子
- ・ 夫よりの誕生祝いの胡蝶蘭飛翔するがに咲き満ちており 榎谷 清子
- ・ 仄暗くうねれる大さ梁の下雑中がけする紅殻引戸 大平美智子
- ・ 大根の畠にかがみて作業する丸き背二つ秋陽に明し 出口千代子
- ・ 里山は朱や黄色に衣替え今朝の綿向雪かぶりたる 山田すみ子
- ・ それぞれに木々は自分の色染めて錦織りなし山包みいる 西谷 幸代
- ・ あちら様こちら様より頂きし汗の結晶野菜あふるる 辻 洋子
- ・ 爛てられ口一文字に引き締めて袴着けゆく男の子三才 初田 邦代
- ・ ひと刷毛の茜の雲を纏いつつ列くずさずに鳥の渡れる 吉村 玉代
- ・ 野路ゆけば秋ひそやかに水引草道祖神の辺に紅をそえいる 恵谷志ゆう
- ・ わが身体意のままにならずあくせくと思ふ事多き老いの現実 佐々木堯信

次号(1月1日号)は、信楽町文化協会の予定です。